

開催日時：2003年9月18日（木） 13：00～16：30

場 所：アクスネット A・Bルーム

参加者数：委員14名、他部会委員2名、河川管理者16名

1 決定事項

- ・主要課題等に関して意見のある委員は意見を提出する。
- ・10月上旬に部会を開催する。

2 審議の概要

委員会等の状況報告

資料1「第6回住民参加部会（2003.8.28開催）、第6回環境・利用部会（2003.8.25開催）、第24回委員会（2003.9.5開催）結果報告」を用いて、委員会等の状況の説明が行われた。

淀川水系河川整備計画基礎原案についての意見交換

資料3-1「環境・利用部会とりまとめ（案）」について、意見交換が行われた。主な意見、やりとりは次の通り。

ゾーニングと利用の関係について

- ・「ゾーニング」というと、「ここだけは利用を許す」という地域を決めているよう。全体が保全地域だという考え方を基本としている。しかし、保全に関して一律に基準を設けることが難しいので、河川毎に保全利用委員会で決めていくことを考えている。（河川管理者）

利用を想定した「ゾーニング」ではなく、「保全」のレベル（再生、修復、回復等）による「ゾーニング」と考えている。委員と河川管理者で、意識の差はないのでは。

「ゾーニング」という言葉は、利用を前提とした地域指定と誤解されるため、使わないことにしたい。また、保全という言葉の意味を定義しておくべき。（部会長代理）

各々の保全利用委員会が内容を共有できるように連絡会的な仕組みが必要。（部会長）

結果を見て考えていくしかない。それにはどう評価するかの仕組み、枠組みが重要。

河川環境保全に関する「計画」「目標」「指標」の考え方について

- ・「目標」とは具体的な数字等ではなく「方向性」である。整備内容シートの個々の事業が、それぞれの実施箇所の考えだけで行われてしまうのではないかと危惧している。

「目標」については河川管理者も同じ考えで基礎原案に記述したつもり。個々の事業をつなぐ全体的な考えや評価の仕方が必要、という意見は理解した。（河川管理者）

- ・現在、河川環境は瀕死の状態なので良いことを少しでも早く実施するしかない。また、河川や生態のことは殆ど分かっていない状態でもあるため、今の状況で「計画」「指標」を決めるのは無理。現在考えている事業を実施し、自然のリアクションを見て今後の見通しを考えるほかない。「指標」については検討事項として記載している。（河川管理者）

今はまだ助走期間であることは理解できるが、それを強調しすぎるのは不安だ。

分かっていることもあるため、不完全でも「指標」があってもいいのでは。「指標」自体をモニタリングの対象として、随時変更していけばよい。

環境については、常に安全側にとって目標や指標を決める姿勢があってもいいのでは

とりまとめ（案）の「手段とプロセス」の記述は今日の議論をもとに修正したい。（部会長代理）

以上

このお知らせは委員の皆様にご会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。